

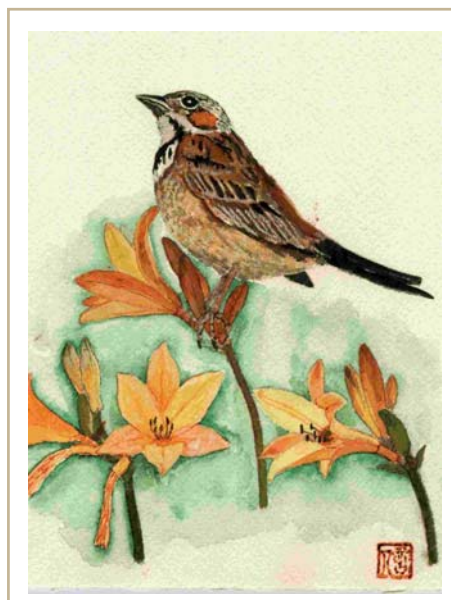
# 住化・住武相談室だより

第10号 10月11日  
 発行 住友化学・住化武田農薬  
 お客様相談室 0120-677-088  
 発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

## 目次

平成18新農薬年度にあたってのご挨拶	
副社長 樫田 雅好	p.1
やさしい農薬の知識 (No.3)	
【自治会長さんと校長先生と農薬】	p.2
IPMの現状と今後 (シリーズ⑧完)	p.3
雑草よもやま話 (10)	p.4
住化アグログループ紹介「住化タケダ園芸」	p.5
今月の推進農薬	
柑橘の貯蔵病害病対策について	p.6
今月の相談内容から	p.7
農薬あれこれなぜなにコーナー	p.7
病害虫発生情報	p.8
登録情報	p.9
最近の「お・・・美味しい!」	p.10
コラム・そば談義	p.11
編集後記	p.11



「ホオアカとニッコウキスゲ」  
 技術顧問 富樫 作

## 平成18新農薬年度にあたってのご挨拶

住化武田農薬(株)  
 取締役副社長 樫田 雅好



住友化学と武田薬品の合弁会社として誕生した「住化武田農薬」は、この11月で4年目を迎えることになりました。

設立以来、厳しい事業環境を勝ち抜くこ

とができる企業体質づくりを目指して、住友化学農薬部門と営業・研究開発・製造・管理といった各部門の組織・人・業務の統合を進めてまいりました。完全な一体運営には未だ幾つかの課題は残されておりますが、完全統合の大きな枠組みはほぼ完成したものと思っております。社員も各自の出身母体にとらわれずに、住友化学グループの農薬事業を今後どのように発展させるかを共に議論し、一致協力しながら業務を遂行しており、社員意識の統一化も大いに進んだと思っております。

さて、先般、新卒・既卒双方の営業社員採用を行ない、応募いただいた多数の方々

の面接に立ち会いました。やはり農薬メーカーに応募する方々ですから、「農薬に対するイメージ・感想」等の質問には、「農薬は人類が生きていくために必要な食糧確保に不可欠な農業資材」「日本の食料自給率改善には農薬の活用が必要」「現在の農薬は正しく使えば安全」と言った回答をご自分の意見として述べられていました。あわせて入社後は、「農薬の必要性、安全性を多くの消費者により正しく理解してもらうように活動をしたい」「時代のニーズと言える農家の人にも環境にもよりやさしい農薬の開発・販売に取り組み日本の農業を支えたい」といった声が聞かれ、大変心強く思ったとこ

ろであります。

私たちは、こうしたフレッシュかつアグレッシブなメンバーを仲間に加えながら、業界ナンバーワンの住化アグログループの一員として、顧客の皆様により安全・安心できる食生活の実現に貢献して行きたいと考えております。今後とも皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

## やさしい農薬の知識 (No. 3)

### 【自治会長さんと校長先生と農薬】

最近、自治会の方の訪問を受けた。わざわざ埼玉から都内の私たちのオフィスまで出向いて来られた。

状況はこういうこと。自治会で使っている小さなグラウンドを二倍程度に拡張したが、一部に葎が相当深く茂っている。手で刈り取るのはとても無理な様子で、いろいろ調べて当社の農薬(除草剤)を使おうと考えている。ちょうどグラウンドのすぐ向かいが学校なので、そこの校長先生に農薬を散布して防除することを話したが、反対されている。校長先生は、除草剤に対してベトナム戦争で使われた枯れ葉剤のイメージを持っているようだ。校長先生に農薬を使っても安全だということを説明したいが、毒性には全くの素人であり、当社を訪問するので安全性について直接噛み砕いて説明してほしいとの要望だった。

当日、自治会長さんともう一方の二人がやって来られた。その剤に関する技術資料のコピーをすでに入手しているが、読んでよく解らなくてという話。そこで、急性毒性のほかいろんな毒性試験\*があること。それに環境生物や環境自体に対する農薬の



影響も調べられていること。農薬として製造や販売が許可(登録)されるためにはこれらすべての試験を実施していること。さらに、すべての試験報告書を提出して専門家による審査を受ける必要があることなどを説明した。

「現在使われている農薬には、校長先生が心配しているようなダイオキシンが含まれていたり、枯れ葉剤のような健康被害を起こすようなものではありません」

「農薬は安全のためにとってもいろんな試験がされていることがなんとなく解りました。ところでLD50 値ってどういうことですか？」

そこで、LD50 値は急性毒性の目安で、体重 kg 当たりの農薬の摂取量(mg/kg 体重)で表されること、人に換算するには体重 50kg として 50 倍して考えることを説明。

「毒物や劇物をご存知ですか？」

「はい」

「この農薬はその LD50 から毒物でも劇

物でもない、いわゆる普通物に分類されるものです。やや乱暴ですが、この農薬はコーヒーに含まれるカフェインよりは毒性が弱く、食塩の急性毒性よりは少し強い程度です」

「食塩にも LD50 値があるんですか?!」

「食塩だって一気にたくさん無理やり摂取すれば危険です。実際にはそんなに一度に摂取するのは難しいとは思いますが」

1時間余りこんなやりとりをして、どうにか校長先生に説明できそうな気がして来

たということで二人は帰って行かれた。

登録のある農薬をラベルに従って使用すれば、決してそれほど危ないものではないのですが、そのことを是非その校長先生にも理解してもらいたいものです。さて、その後の首尾をきいてみなければ。(原)

\* 急性毒性、長期(慢性)毒性、目・皮膚への刺激性、皮膚感作(アレルギー)性、変異原性、催奇性、神経毒性、繁殖毒性、発がん性などの毒性試験があります。

## IPMの現状と今後 (シリーズ⑧)

### その他の利用技術

今まで述べた以外に耕種的防除方法として、病虫害の発生場所となる雑草管理や施設内の夏場の蒸しこみ、温水処理などが併用される場合があります。

また、最近注目される新たな技術としては、病害に対する技術を挙げることが出来ます。現在独立行政法人の研究機関を中心として「弱毒ウイルス利用による植物ウイルス病対策」や「抵抗性誘導による病害の回避」、「新たな耐病性品種の利用」などの開発研究が進められています。

今、インターネットで「IPM 総合防除」で検索すると約 1,000 件のヒットがありました。さらに海外のサイトも含むよう「**integrated pest management**」で検索すると、なんと約 500,000 件のヒットでした。かつて農業に携わる技術者だけが知

っていた言葉がいまや社会的に広く知られる状況です。ネット上には、各種作物での産地の取り組み事例が多数報告されています。



チャハマキ 顆粒病ウイルス (HmGV)

農水省は昨年12月の「農林水産環境政策の基本方針」の中でIPMを推進する方向を打ち出しています。今後、農業場面で広くIPMという考え方が取り入れられ、それに対応する技術が導入されていく方向性は、も

はや疑う余地のないところでしょう。このような状況の中で、IPM(総合防除)に取り組む農家の方々に広く受け入れられる技術や資材を提供することが、いまわれわれに求められていると思われま

<完>

## 雑草よもやま話(10)

アカマツ林は下草がほとんど無いことから「アカマツの露は下に生える草を枯らす」とか、「クルミを植えるとその周囲の作物がよく出来ない」とか、「クリが水田の近くにあると、田が茶色になって稲の出来が悪い」とかいう現象が昔から観察されています。

近年これらの現象についての研究が進み、アレロパシーによることが明らかにされてきました。アレロパシー（他感作用）とは、一般的に「ある植物から放出される物質が、他の植物や微生物に何らかの影響を及ぼす現象」を意味します。

この定義には、ある植物が他の植物の生育を阻害したり、特定の作物を連作することによる忌地（いやじ）現象のような阻害作用だけでなく、違う種類の植物同士を植えておくと、互いに生育が促進されるような共生関係も含まれます。

アレロパシーは生態系調和型農業において、病虫害抵抗性品種や雑草抑制力を持つ品種の育成、連作障害の防止、間作や混植による増収等の面で寄与する事が期待されています。植物が生産・放出する化学物質を農薬的に使用している例は多々あり、マ

リーゴールドやタヌキマメ（別名：コブトリソウ）、畑雑草のエビスグサ等がセンチュウの被害軽減を目的に植え付けられていますし、タバコのニコチン、デリスのロテノンは古くから殺虫剤として利用されています。ほとんどすべての植物が生成しているジベレリンは、ブドウの種無し化や各種植物の生長調節に使用されています。人間が化学的に作った物質は自然界に存在せず危ないものであり、天然に存在する物質は人間や環境に安全であるという妙な考え



方がありますが、植物が生成する化学物質には合成農薬と類似の化学構造を持つものがあり、クルミの葉に含まれる物質が分解してできるユグロンの化学構造は、除草剤のキノクラミンに類似しています。

また、藤井氏らは、クレオメに含まれる揮発性物質から、20年以上も前に殺センチュウ剤・殺菌剤として農薬登録されているメチルイソチオシアネートを検出しております。人間が合成した化学物質と同じ物質を、植物も生産していたのです。

（岩崎）



## 住化アグログループ紹介

## 住化タケダ園芸(株)

## 新商品ガイド

50~80㎡まで  
(約15~24坪)  
広々散布できる

そのままシャワーで草退治!  
薄めずまける液体除草剤  
新容器で新発売!

除草剤

# 草退治シャワー



農林水産省登録第 21282 号

グリホサートイソプロピルアミン塩液剤（成分）グリホサートイソ  
プロピルアミン塩…1.0% 界面活性剤等…99.00%

（性状）淡黄色澄明水溶性液体

2リットル入

■ 特 長

- 手軽にそのまま散布できるシャワータイプです。
- 生育中の雑草（草丈 30cm 以下）を速やかに退治（2~14日で枯れはじめます）。



- 有効成分は雑草の葉や茎から吸収され、根まで行きわたり、植物全体を枯らします。
- 散布液は土に落ちると速やかに不活性化されます。

■ 適用場所

公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面 等

■ 適用雑草名 一年生雑草



など

- 使用時期 雑草生育期（草丈 30cm 以下）
- 1㎡あたり使用量 25~40ml（原液散布）
- 総使用回数 ※3回以内
- 使用方法 雑草茎葉散布

※印は本剤及びグリホサートを含む農薬を年間に同一場所に使用できる総使用回数の制限を示します。使用に際しては必ず商品の説明をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

## 今月の推進農薬

# 柑橘の貯蔵病害対策について

## 貯蔵病害(果実腐敗)にベンレート水和剤



### 1) 生態及び防除の考え方・ねらい

- ①病気の種類は多いが、病原菌(糸状菌=かび)が果実表面に付着する「青かび病」、「緑かび病」、「灰かび病」と菌が果皮内に潜在する「軸腐病」、「黒腐病」、「黒斑病」があり、その内「青かび病」、「緑かび病」、及び黒点病菌による「軸腐病」が“三大”貯蔵病害とされている。
- ②果実表面付着型の病害は、比較的貯蔵初期に発生することが多く、果皮内潜在菌は貯蔵後期に発生が多い。但し「青かび病」は果実表面付着型だが、貯蔵庫内の菌密度が高くなると貯蔵の後半に多発することもある。
- ③貯蔵用果実の腐敗防止は、肥培管理により貯蔵性の高い果実をつくり、収穫時には果実に傷をつけないように注意する。貯蔵管理にも十分留意し、腐敗防止薬剤防除とあわせて総合的な腐敗防止に努めることが肝要。
- ④早生温州のように収穫後ほとんど貯蔵することなく出荷し、輸送中の腐敗の方が問題になるものに対しては、収穫時に近いほど、また薬剤濃度も登録されている範囲で高いほど、防腐効果は高い。一方、貯蔵期間が数ヶ月以上に及ぶものは、収穫21日前頃の散布が効果的との公的機関(佐賀果試)の試験事例がある。

### 2) 防除対策

- ①傷害果を除去する
- ②予措(風乾により、果実の水分を重量で3~4%低下させる)を行う
- ③薬剤による防除を行う。貯蔵病害の原因菌は多種類あり、これらすべてに効果のある薬剤はない。目的に適合した薬剤を使用する。

### 3) 防除薬剤(『使用推奨剤』)とその注意事項など

農薬名	使用濃度	散布適期	備考(使用上の注意など)
ベンレート水和剤 ベノミル 50%	4,000~ 6,000倍	収穫前日 ~収穫 20日前 前後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベフランを混用散布すると防除効果が安定する</li> <li>・貯蔵期間が短い場合は、収穫時期近くで散布、貯蔵期間が長い(数ヶ月以上)の場合は、収穫21日前頃の散布が効果的</li> <li>・果実の鮮度保持(老化防止)効果</li> <li>・「黒腐病」には効果ない</li> <li>・「緑かび病」の耐性菌問題</li> </ul>
ベフラン液剤 ミナクジン酢酸塩液剤	2,000倍	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンレートを混用すると効果が安定する</li> <li>・「軸腐病」に効果低く、「緑かび病」に若干不安定。</li> </ul>

※混用上の注意! ベンレート水和剤を所定の濃度に希釈した後に、ベフラン液剤を混用すること(この逆では、“沈殿”を生じる)。

## 今月の相談内容から

### ネキリムシ防除について？

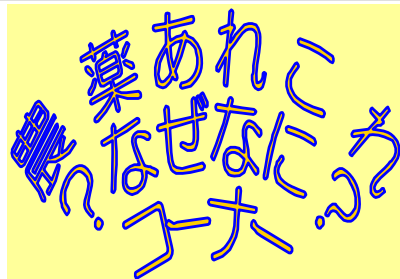
#### 質問

朝見ると、植えたばかりの野菜苗が一夜にして切られている。ネキリムシの被害と言われショックが大きい。発生と防除方法を教えてほしい。

#### 回答

ネキリムシ類はカブラヤガ・タマナヤガ等ヤガの仲間です。若令幼虫は茎葉を食べますが、食べる量が少なく被害にはなりません。しかし、中～老齢幼虫は成長点や株を噛み切るので被害が大きくなります。生態は中～老齢幼虫で越冬し、年間2～5回発生します。若令幼虫は葉裏に潜み食害も少なく発見しにくく、中～老齢幼虫は昼間土中に潜み、夜間活動するので散布剤の効果が上げにくい害虫です。

極めて雑食性ですので防除は、圃場やその周辺の雑草も除草し密度低下を図ります。常発地や前年多発生した圃場では、は種前や定植前のダイアジノン粒剤5やフォース粒剤の土壌処理が、コガネムシ類やキスジノミハムシの同時防除も出来、経済的かつ効果的です。被害が認められたら誘引殺虫剤のネキリトンKの夕方散布や、ネキリムシに登録のあるベイト剤の施用があります。しかし、これらの剤は施用後に雨が降ると効果が低下します。(富樫)



## いよいよ収穫の秋！

#### ご質問

待ちに待った収穫の秋。新米、栗、柿、芋、きのこ・・・と挙げればきりがありませんが私の好物はなんといっても「梨」なのです。毎日でも食べるぐらい好きなのですが、毎日・・・とい

うとちょっと心配になるのが農薬残留です。作物には農薬は少なからず残るものと思っていますが、梨は皮を剥くし、果実の部分までは心配することはないのでしょうか？

#### お答え

ナシの農薬の残留分析は、収穫物の皮を剥かず、収穫したそのままの状態です。そして、たとえ農薬が残っていると、一生毎日食べても安全な量以下になるように、厳しい基準に従って農薬登録され、使用されてお

ります。ですから、そのまま食べても十分安全な量です。皮を剥いて食べるのであればさらに安全と言えるでしょう。

どうぞ、安心しておいしい梨を心ゆくまでご賞味ください。(佐伯・稲葉)

## 病害虫発生情報

9月～10月初旬に各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

### 野菜・花き類

○トマト黄化葉巻病：高知県

○トマト黄化萎縮病：徳島県

トマト黄化葉巻病はシルバーリーフコナジラミにより媒介されるトマト黄化葉巻ウイルスにより発生し、トマト黄化萎縮病はタバココナジラミにより媒介されるタバコ葉巻ウイルスにより発生します。

二つの病気の病徴による識別は困難です。

定植時のダントツ粒剤又は、ベストガード粒剤（定植時はタバココナジラミ、は種時又は鉢上げ時の育苗培土混和では、コナジラミ類で登録）、生育期の両水溶剤で、コナジラミ類の防除を行ってください。



トマト黄化葉巻病

### あぶらな科野菜・だいず他

○ハスモンヨトウ：福島・滋賀・岡山・島根・香川県

プレオフロアブル（キャベツ）、フローバックDF（野菜類、だいず）、ゼンターリ顆粒水和剤（野菜類、豆類（種実）、そば、きく）パーマチオン水和剤（だいず）などが、ハスモンヨトウで登録があります。

また、地域で協力して性フェロモン剤、フェロディンSL（ハスモンヨトウ加害作物で登録）による雄蛾の大量誘殺という防除方法もあります。

### かんきつ・みかん

○ミカンハダニ：熊本県

○カメムシ類：長崎・鹿児島県

○ミカントゲヘリカメムシ：三重県

ミカンハダニには、ビルク水和剤、粘着くん液剤などで、カメムシ類には、ダントツ水溶剤、ロディー乳剤などでの防除が可能です。



クワシロカイガラムシ

### 茶

○クワシロカイガラムシ：埼玉県

○カンザワハダニ：宮崎県

当社の防除薬剤としては、クワシロカイガラムシにはスミロディー乳剤、カンザワハダニにはオサダン水和剤・フロアブル、ビルク水和剤、ボルテージ乳剤、粘着くん液剤などがあります。

(稲葉)



## 登録情報

9月14・21日、10月5日付の適用拡大です。

薬 剤	作物名	病害虫・雑草	使用量等	収穫前日数・使用回数等
パダンSG 水 溶 剤	実えんどう	ウラナミシジミ	1500 倍	★作物追加 収穫前日まで／3回以内／散布
		ナモグリバエ	1500～2000	
ダントツ 粒 剤	レタス	アブラムシ類	0.5g/株	★作物追加 育苗期後半／1回以内／株元処理  ★使用量変更 定植時植穴処理土壌混和
	すいか	ミナミキイロア ザミウマ	1～2g/株	
		トマト・ミニ トマト		
ダントツ 粉 剤 DL	水田作物、畑 作物(休耕地)	カメムシ類	3～4kg/10a	★作物追加 4回以内／散布
イッテツ 1キロ粒剤	水稲	シズイ（東北）		★雑草追加 ★適用地帯変更 全域の普通期及び関東・東山・東海及び 九州の早期栽培地帯へ拡大 ★使用時期追加 移植後 15～25 日(移植前後の初期除草剤 による土壌処理との体系)：東北・北陸
ドニチ 1キロ粒剤	水稲			★使用時期変更 全域（北海道・九州を除く）の普通期及 び早期栽培地帯の使用時期を移植直後～ 移植後 15 日に変更。 ★使用時期追加 移植後 15～25 日(移植前後の初期除草剤 による土壌処理との体系)：近畿・中国・ 四国の普通期及び早期栽培地帯
プレオ フロアブル	キャベツ	ハイマダラノメ イガ・ウワバ類		★適用害虫追加
	トマト	ハモグリバエ類		
リゾレック ス粉剤	とうがん	実褐斑病	30 kg/10a	★作物追加 収穫 45 日前まで／1回／土壌表面散布 ★作物名変更 花き類(草本植物)・観葉植物→花き類・観 葉植物
スミレック ス水和剤				★作物名変更 かんきつ → みかん ★使用時期変更

				みかん「開花期」→「開花期但し、収穫30日前まで」 ★使用方法削除 みかん「無人ヘリコプターによる散布」を削除
スミブレン ド水和剤				★作物名変更 かんきつ → みかん ★使用時期変更 みかん「開花期」→「開花期但し、収穫30日前まで」 ★ジエトフェンカルブを含む農薬の使用回数変更 ふき「4回以内」→「2回以内」
スミレック スクン煙顆 粒				★使用時期変更 みかん「開花期」→「開花期但し、収穫45日前まで」

(稲葉・佐伯)

新コーナー！！

## 最近の「お・・・美味しい!!」

今月より弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします  
 最近の「お・・・美味しい!!」  
 女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、  
 毎月「これぞ!」というものを紹介します。  
 どうぞお楽しみに♪♪♪



・・・記念すべき第1回は

## 「なんといっても、この季節は梨!!」

ほぼ毎日食べています。梨。大好物なのです。

私が住む千葉県市川市と松戸市の境は梨の産地。この時期になると道端に露店が立ち、宅配便の「梨」のぼりがハタめきます。そんな光景を目にすると、いよいよ秋本番だなーと思ってしまう、毎年のことです。この時期しか出ない「青いみかん」も大好きだけれど、やっぱり梨でしょう!

豊水・幸水・二十世紀・・・etc.

あ～ 幸せ♪

今日もきっと「いただきま～す」! (佐伯)



[山盛り・・・毎日こんな感じです]

## コラム・そば談義

J R 中央線沿いに高円寺という駅がある。ピンとこない方は、中野駅の隣といった方が分かり易いだろうか。この商店街は駅の名前の通り檀家寺が多いせいか、緑も豊かで大都会の近くにあるのが嘘のようだ。しかし、ふと空を見上げれば新宿の巨大な高層ビル群が間近に迫る不思議な街だ。

さて、この商店街の奥まったところに「信濃」というそば屋さんがある。通勤経路が同じ仲間と途中下車して暖簾を潜ると、還暦を少し過ぎたと思われるご夫婦が「いらっしやい」と快く迎えてくれる。

早速、酒の肴に大好きな蕎麦掻きを彼は頼み、当方は出汁巻玉子を注文し、最後は二人でもりそばを啜った。そこで、例によって、ご主人に蕎麦についての話を色々伺った。その内容からすると子供さんも巣立った今は、蕎麦屋を営みながら悠々自適の生活を送られているとのこと。その証拠に、2ヵ月に一度は馴染み客に感謝の気持ちを込めて、蕎麦を食べながら落語を聞く「信濃寄席」を催しているとのこと。これなどは、人生を楽しみにしないと出来ない

ことである。また、毎月5日連続で定休日を取りご夫婦で旅行なども行かれるとのこと。それを聞いて、何だかうらやましく思うのである。同僚の彼は、早速「信濃寄席」とやりに参加し、大いに盛り上がったとのこと。

そんな蕎麦屋さんのことを考えながら、我が相談室も感謝の気持ちを込めて何か出来ることはないものかと思うが、今はお客様の立場にたった情報をキチンとお伝えすることと考えている。

ところで、秋もこれからが本番「新そば」の季節だ。おいしいそばを早く打ちたいものである。女房がお世話になっている陶芸仲間からも新そばを食べたいとの催促があったとのこと。さあ、今から何だか腕が鳴る・・・。

(古津)

[今月紹介のそば屋さん]

手打そば「信濃」

東京都杉並区高円寺南 3-44-15

TEL 03-3314-0248

## [編集後記]

定期的に、住化グループ相談室会議なるものを年3回開催している。その5回目の会議が先日あった。今、グループで農薬の安全な使い方を中心としたパンフレットを共同で作成している。内容は、初めて農薬を買いに来たお客様がどのように農薬を選び使用したらよいかとか、また農薬を使用した収穫物の安全性の解説や、農薬の保管方法および要らなくなった農薬の廃棄方法をわかり易くまとめたものである。ぜひ、完成したら多くの方にご覧になって頂きたいと思う。

さて、夏から秋の大きな変化は気温が下がることもあるが、なんと言っても日没が早まることである。それと共に、秋は足早にやってくる。そして、それが秋の始まりは、何だか物悲しい気分になる一因かと考えている。

しかし、相談室はそんな感傷的な気分には浸れる余裕もないほど、最近は問い合わせが多くなった。

